

乳幼児期の貧困の把握に関する
アンケート調査結果
【保育士向け】

【本件に関する問合せ先】

TEL : 080-6895-5796

Mail : info@fb-kyougikai.net

担当者 : 米山広明 (認定 NPO 法人フードバンク山梨プログラム・オフィサー、
一般社団法人全国フードバンク推進協議会事務局長)

2018年4月13日
認定 NPO 法人フードバンク山梨

本調査は仲田育成事業財団の助成により実施しました

目次

I. 調査の背景と目的	1
II. 調査の概要	2
1. 調査方法と回収状況	
2. 主な調査項目	
3. 調査結果を見る際の注意事項	
III. 調査結果の概要	3
IV. 考察	22

I. 調査の背景と目的

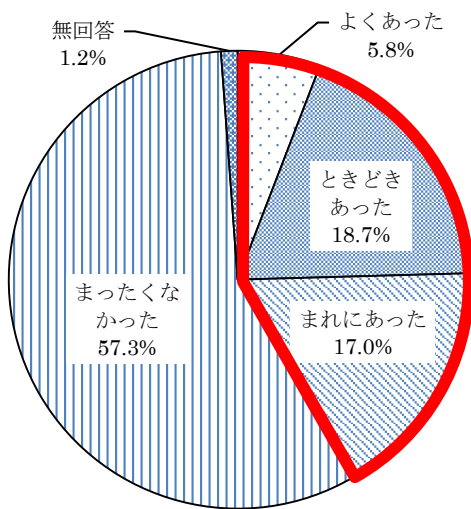
1. 調査の背景

日本における子どもの貧困率は13.9%（約7人に1人）。人数にすると実に280万人以上の子どもが貧困状態にあるとされています。また、母子家庭の貧困率54.6%と先進国の中でも最悪の水準となっています。このような事態を受けて「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が2014年1月に施行され、国をあげて子どもの貧困対策を総合的に推進していく方向性が示されています。

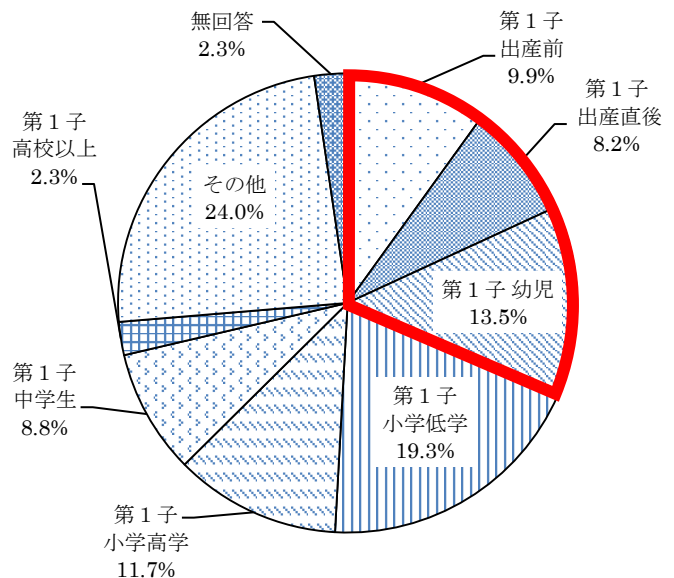
2016年に認定NPO法人フードバンク山梨が食料支援をしている546世帯を対象に実施したアンケート調査で、ミルクやオムツが不足したことがある家庭は、調査対象世帯のうち41.5%でした。（図A）

また、経済的に苦しいと感じるようになった時期については、「第1子出産前」、「第1子出産直後」、「第1子が幼児の頃」を合すると54名（31.6%）であり、回答者の約3割が比較的早い時期から生活困窮状況にあり、母親の妊娠・出産期、子どもの乳幼児期からの早期把握、早期支援の必要性が明らかになりました。（図B）

図A. オムツやミルクが不足した経験



図B. 経済的に苦しいと感じるようになった時期



2. 調査の目的

本調査は、上記調査により明らかになった乳幼児期の貧困の実態を把握することを目的としています。

II. 調査の概要

1. 調査方法と回収状況

調査協力者：山梨県保育協議会、長崎大学小西祐馬准教授、一般社団法人全国フードバンク推進協議会

調査対象：山梨県内の保育施設に勤務する保育士

調査方法：山梨県保育協議会からアンケート調査票を保育施設に郵送。園児の各年齢ごとに1名ずつ、主担任の保育士が回答。回答後、認定 NPO 法人フードバンク山梨に郵送し回収。

調査期間：2017年12月1日～12月31日

有効回答数：628

2. 主な調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 保育施設におけるこどもの貧困の把握
- (3) 子どもの貧困への対応

3. 調査結果を見る際の注意事項

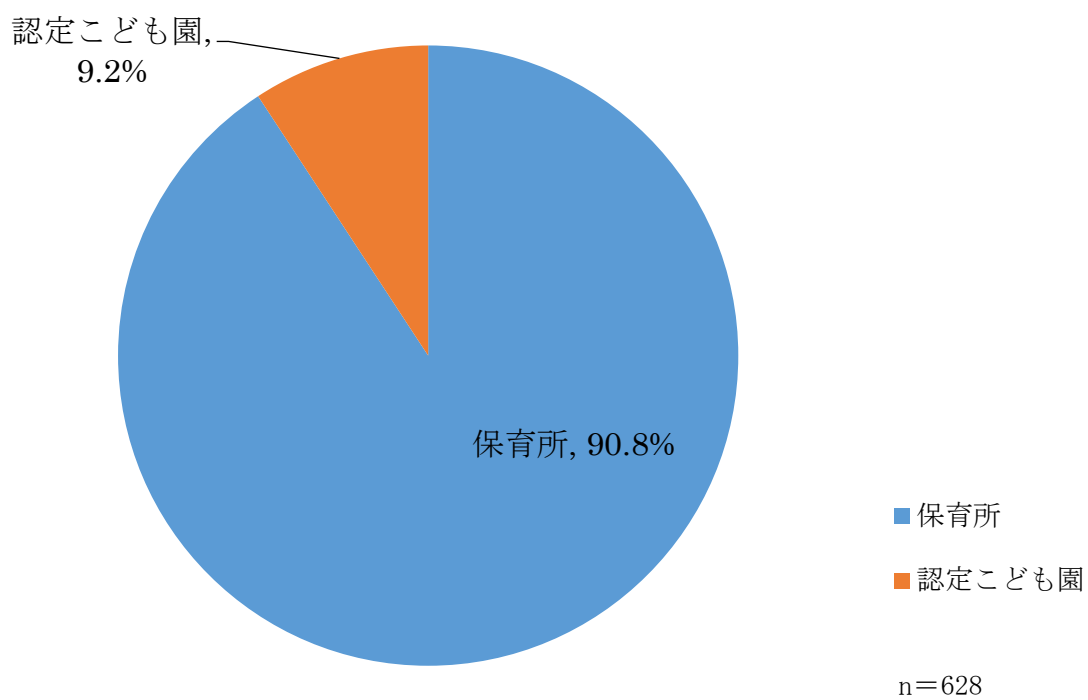
- (1) 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 不明（無回答・無効回答）を除いて集計しているため、nと全体の回答数には誤差があります。
- (3) 百分率（%）の計算は、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%に満たない場合や上回る場合があります。
- (4) 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- (5) 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- (6) 自由回答の記述は原則、誤字、脱字も原文のまま転記していますが、個人情報や個別の機関、団体を特定できるような情報については、一部削除している場合があります。

Ⅲ. 調査結果の概要

1. 現在勤務している保育施設の種類を教えてください。

現在勤務している保育施設の種類については、90.8%が「保育所」に勤務していると回答し、9.2%が「認定こども園」に勤務していると回答した。

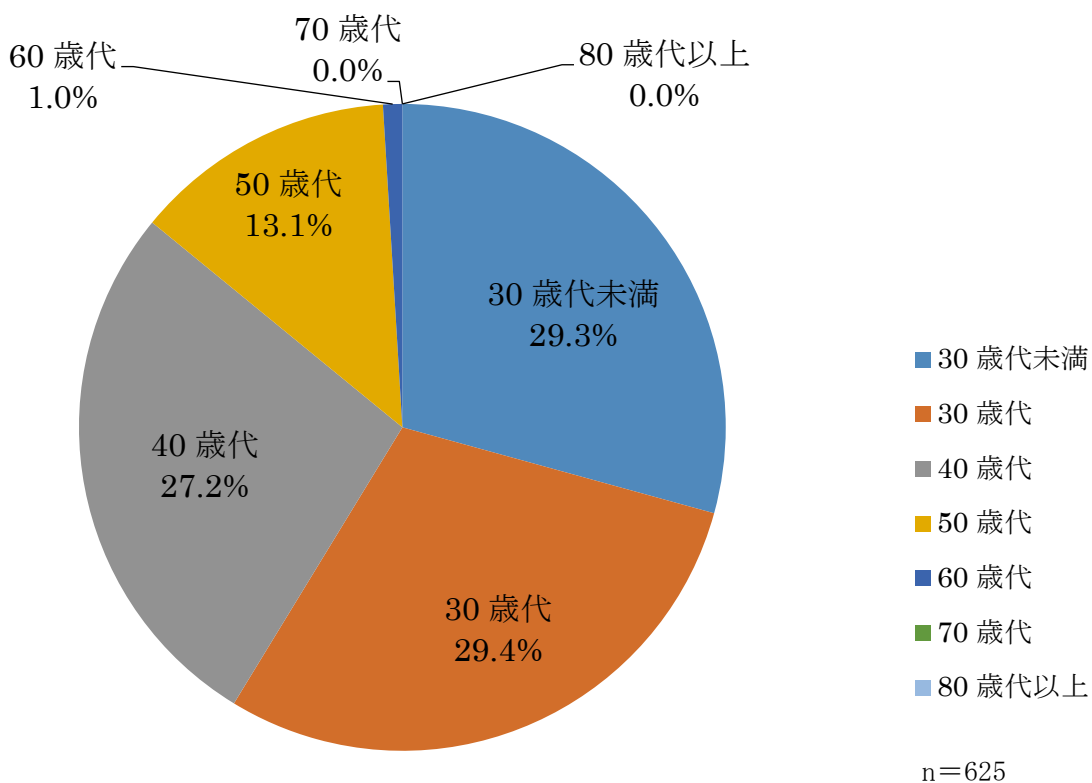
図1. 現在勤務している保育施設の種類



2. 記入される方の年代について教えてください。

回答者のうち、「30歳代未満」が29.3%、「30歳代」が29.4%、「40歳代」が27.2%、「50歳代」が13.1%、「60歳代以上」は1.0%となっている。

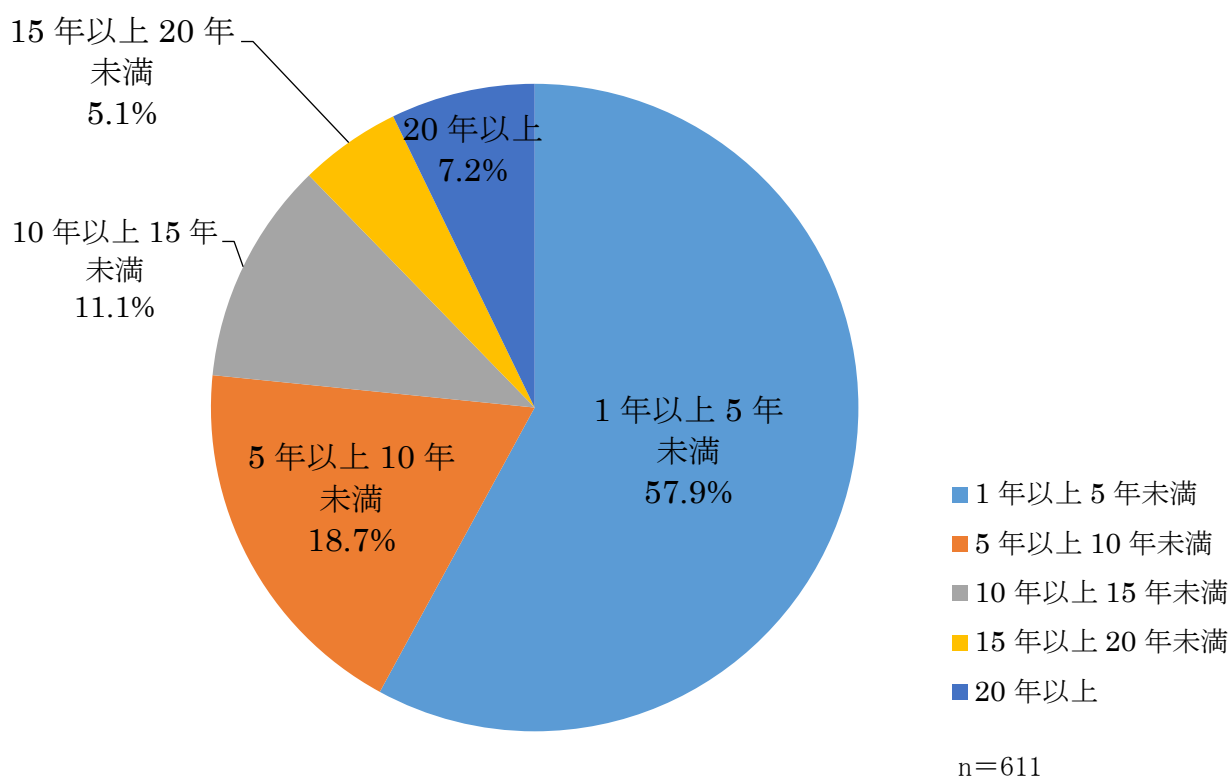
図 2. 回答者の年代



3. 現在の保育施設での勤務年数を教えてください。

現在の保育施設での勤務年数については、「1年以上5年未満」が57.9%で最も多く、ついで「5年以上10年未満」が18.7%、「10年以上15年未満」が11.1%となっている。

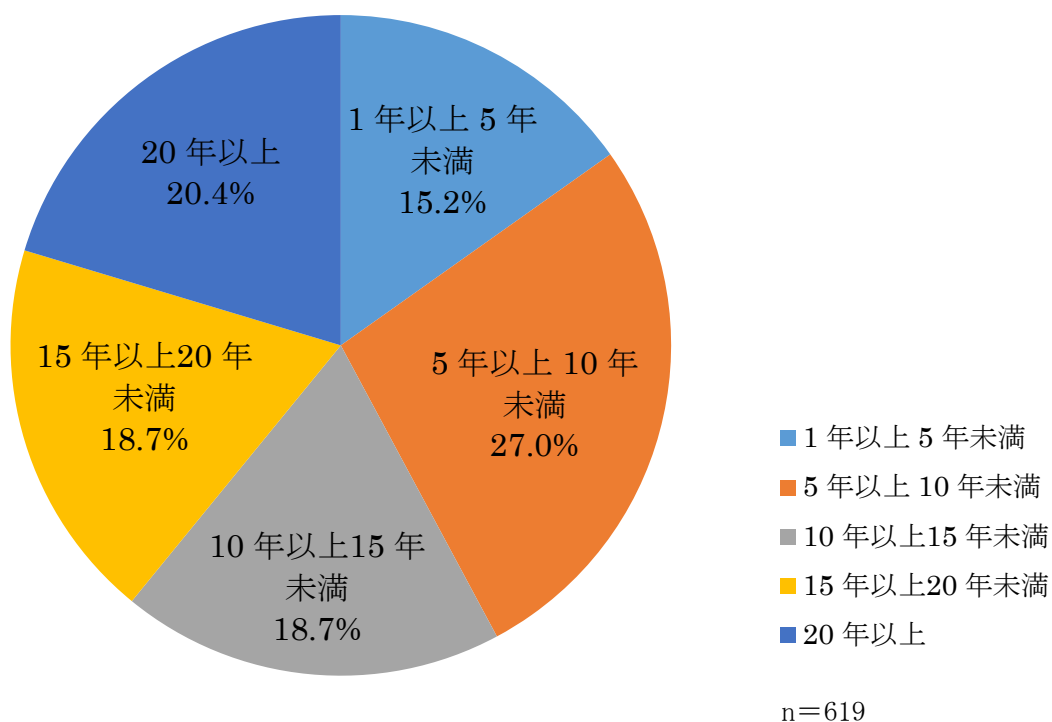
図3. 現在の保育施設での勤務年数



4. これまでの保育施設での通算勤務年数を教えてください。

これまでの保育施設での通算勤務年数については、「5年以上10年未満」が27.0%と最も多く、ついで「20年以上」が20.4%、「15年以上20年未満」、「10年以上15年未満」がそれぞれ18.7%となっている。

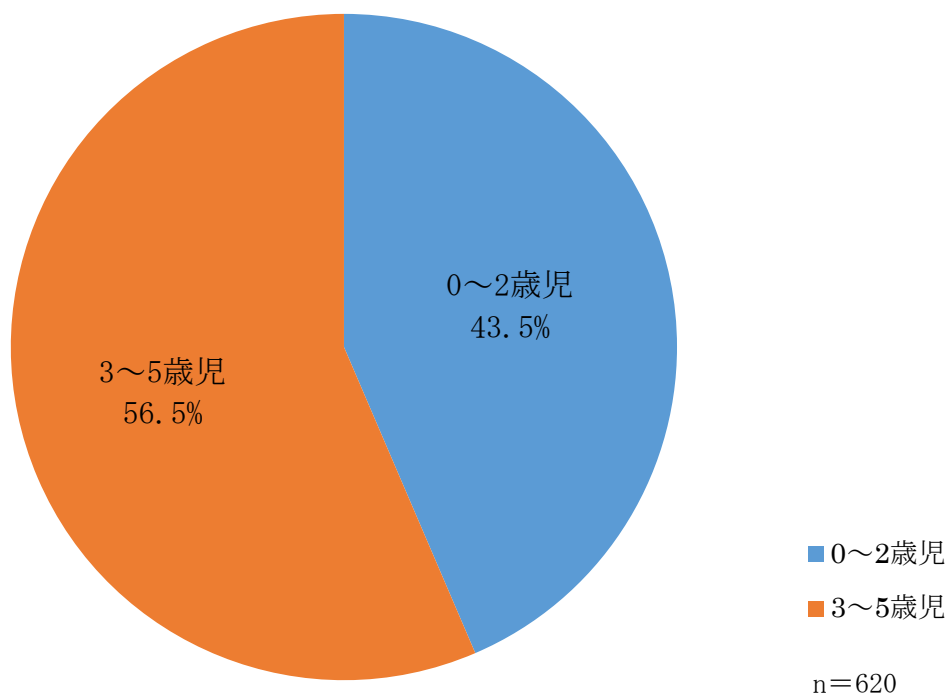
図4. これまでの保育施設での通算勤務年数



5. 現在、主に何歳児のクラスを担当しているか教えてください。

現在、主に何歳児のクラスを担当しているかについては、回答者のうち 43.5%が「0～2 歳児」と回答し、56.5%が「3～5 歳児」と回答した。

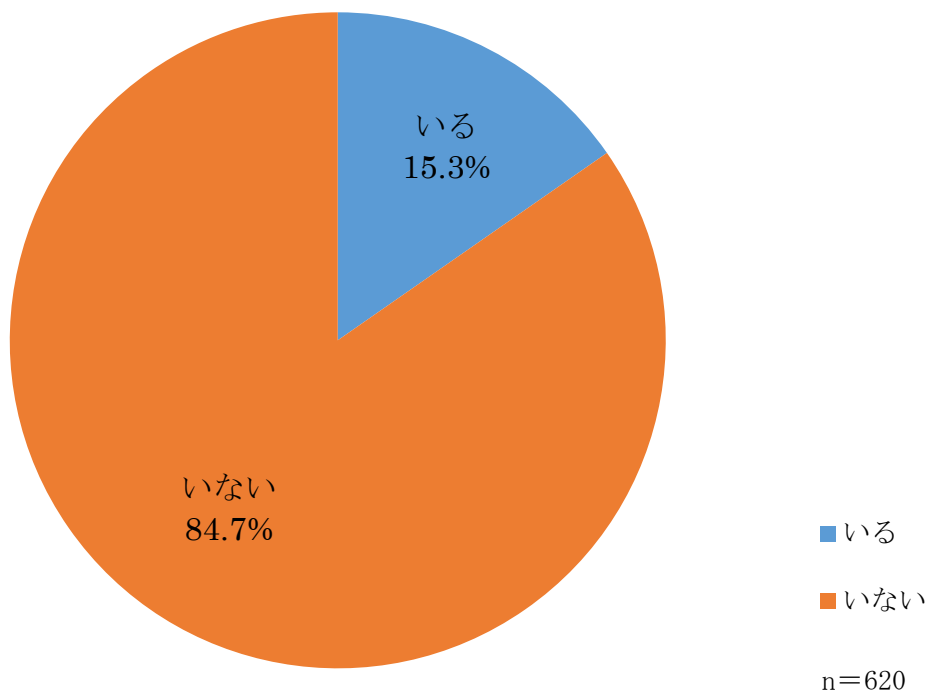
図 5. 現在何歳児のクラスを担当しているか



6. 現在担当している年齢の園児の中に、貧困世帯で育てられていると思われる園児はいますか。
(2017年4月～11月末の期間、同年齢の他クラスも含めて)

貧困世帯で育てられていると思われる園児の把握については、「いる」が15.3%、「いない」が84.7%となっている。

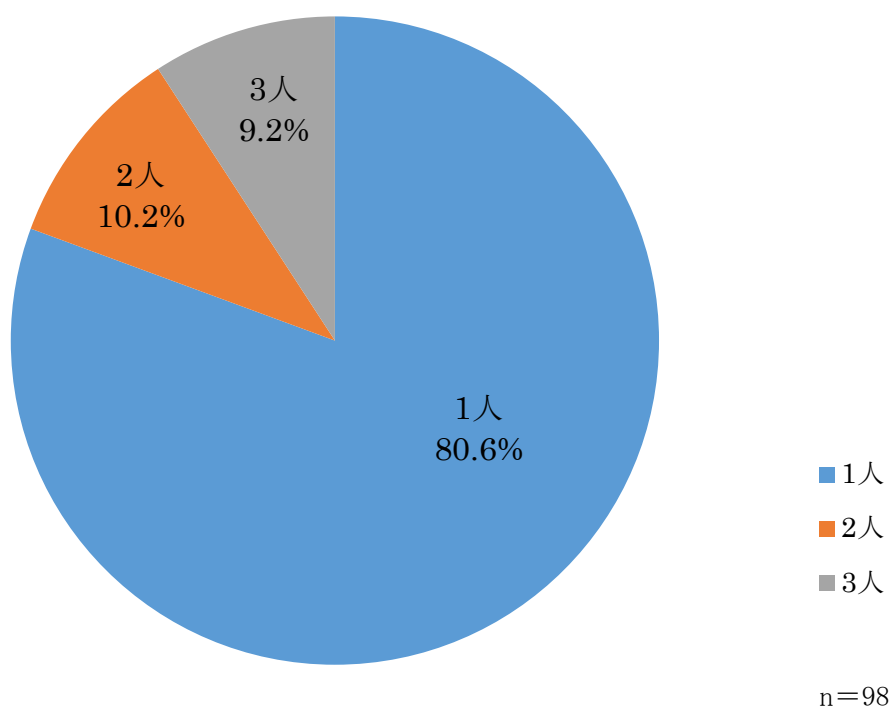
図6. 貧困世帯で育てられていると思われる園児の把握



7. 現在担当している年齢の園児の中に、貧困世帯で育てられていると思われる園児は何人いますか。(同年齢の他のクラスを含む)

現在担当している年齢の園児の中に、貧困世帯で育てられていると思われる園児は何人いるかという設問については、「1人」が80.6%と最も多く、ついで「2人」10.2%、「3人」が9.2%となっている。

図7. 貧困世帯で育てられていると思われる園児は何人いるか



【参考】

本調査において、回答者した保育士が貧困と世帯で育てられていると思うと感じた園児の人数は、下表のとおり合計で126人となっている。

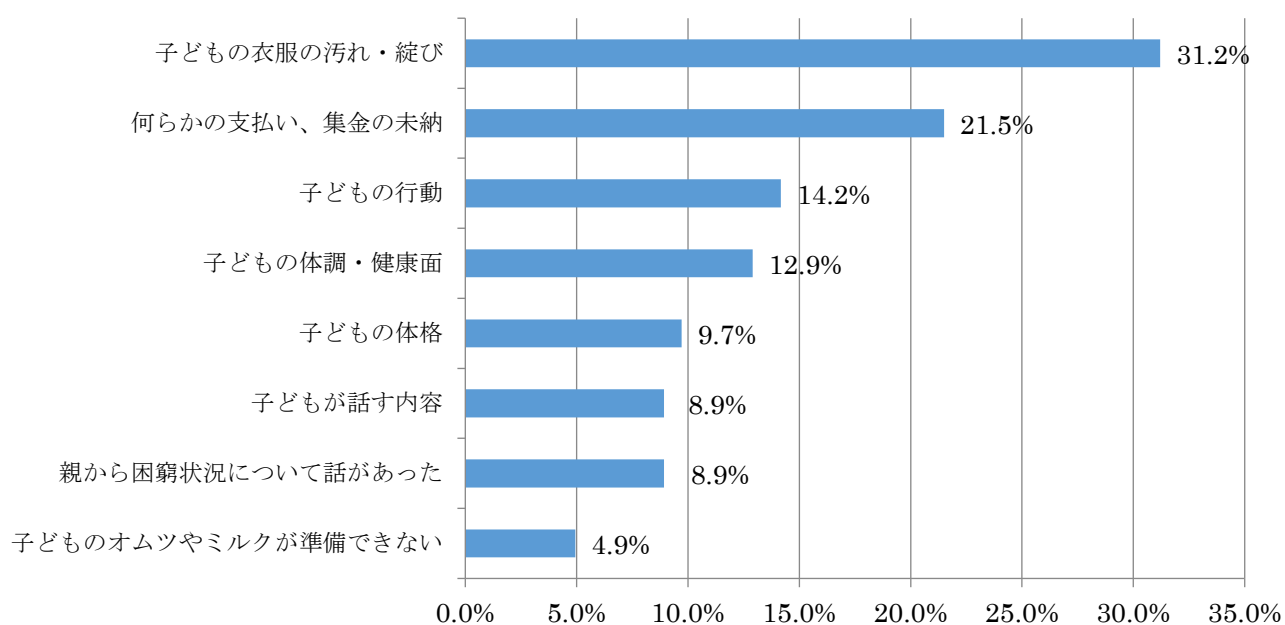
本調査と並行して実施された、「乳幼児期の貧困の把握に関するアンケート調査（施設長、管理者向け）」の調査では、調査対象の保育施設に通園している園児の合計人数は12459人となっている。

回答	回答者の数	園児の人数
1人	79 (80.6%)	79人
2人	10 (10.2%)	20人
3人	9 (9.2%)	27人
合計		126人

8. 園児が貧困世帯で育てられていると思ったのは、どのような場面・状況でしたか。
(他のクラスや過去の経験も含む)

園児が貧困世帯で育てられていると思った場面・状況については、「子どもの衣服の汚れ・綻び」が31.2%と最も多く、ついで「何らかの支払い、集金の未納」が21.5%、「子どもの行動」が14.2%、「子どもの体調・健康面」が12.9%となっている。

図8. 園児が貧困世帯で育てられていると思った場面・状況



n=628

9. 園児が貧困世帯で育てられていると思ったのは、どのような場面・状況でしたか。(自由記述から一部抜粋)

(1) 子どもの衣服の汚れ・綻び

- ・ 一週間以上同じ服を着て登園する子がいた。(洗濯もされていない服で)
- ・ 衣服の汚れが目立ったり、寒くてもわりと薄着 サイズの合っていない物をきてくる
- ・ 衣類がカビている サイズの合っていないものを着ている。着替えていない(何日も)
- ・ かばんが汚れている、中から砂がでてくる。着替え袋の衣服が汚れており、ごみや砂がでてくる。(家庭から持ってきた際)
- ・ 衣服のサイズがあっていない(小さめ)。衣服が伸びきっている。スタイにカビがはえている

(2) 何らかの支払い、集金の未納

- ・ 絵本代、教材費の未納があった。
- ・ 保育料、保護者会費、写真代等期日が守れず声を掛けることが度々ある
- ・ 保育料が引き落としする日に残高がないのか、毎月されず、後日園に保育料を持ってきて支払う。
- ・ 保護者会費、教材費、延長保育料を支払うのが困難。
- ・ 母子家庭で子どもが入院し、仕事を休まなくてははいけず長期で休んだため、給料がなく、お金が払えない。
- ・ 500円前後の集金を「月末まで待ってほしい」と言われる。

(3) 子どもの行動

- ・ 給食やおやつをすごい勢いで食べ始める、量が給食量だけでは足りず泣く
- ・ 給食をよく食べおかわりもするが、拾い食いをし、それがなかなかおらなかつた時。
- ・ おなかですきすぎて、自分の分の給食だけでは足りず、他児の食べこぼしを拾って食べていた。
- ・ 食に関して異常な食欲さ。おかわりがないと崩れ落ちて泣く。床に落ちている食べかすや自分の足の裏についたごはん粒などちゅうちょなく口へ運ぶ
- ・ 食べることに執着することが多く、床に落ちている(他の子が落としたもの)ものまで食べようとしていた。
- ・ 怒りっぽく、手が出ることもある。保育者に少し声をかけられるとにらみ、椅子に座らない、偶に隠れる、物にあたることもある。
- ・ 感情の起伏が激しい

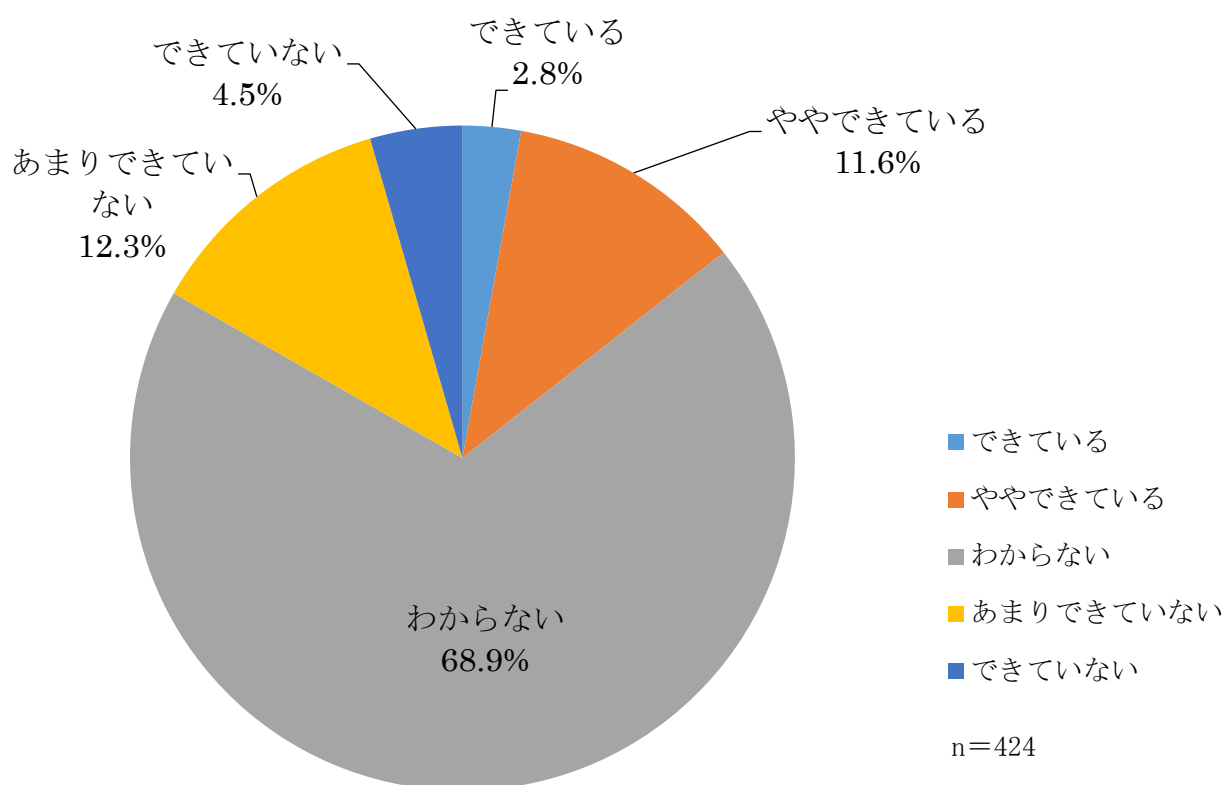
(4) 子どもの体調・健康面

- ・ 栄養不良が疑われ、脳にも影響があるように思われた(下痢が続く、赤ちゃんの時は異変を感じにくかったが徐々に障害のチェックが入るようになった)
- ・ 朝食を食べておらず、外へ遊びに行ったが、フラフラと部屋の方へ歩いて戻ってきて、テラスに倒れ込んだ。
- ・ 風邪をひいても病院へ行かない。予防接種をまったく受けない。
- ・ お風呂に入っていない。虫歯が多い。病気やケガの手当てができていない。
- ・ 虫歯があり、治療をしていない。体調をくずし、突然倒れる。(貧血症状)
- ・ 以前扉に指をはさんでしまい、指がうみ、爪がはがれてしまうことがあったが受診はせず様子をみる形で過ごすことがあった。
- ・ むし歯だらけ。朝食を食べてない。健診や予防接種をほぼ受けていなかった
- ・ 常に鼻水が出ていたり、感染症にかかりやすい。
- ・ 鼻水が年中出ていてなおらない。
- ・ 給食をよく食べる。むし歯が多く、歯がとけてしまっている。

10. 貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、担任として十分な対応ができていると思いますか。

貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、担任として十分な対応ができていると思いますかという設問については、「できている」の回答が2.8%、「ややできている」が11.6%、「わからない」が68.9%、「あまりできていない」が12.3%、「できていない」が4.5%となっている。

図9. 貧困世帯の園児を把握した際の対応



11. 前問で、「できている」、「ややできている」と回答した方にお伺いします。貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、具体的にどのような対応策をとっていますか。

(自由記述から一部抜粋)

- ・園で使う必要な物(水着、水泳帽、サンダル)など園で用意した。保育時間の配慮。保護者の話、要求を受け止める
- ・園服、体育着など購入ではなく貸与という形をとった。
- ・教材等、使い回しのできるものなどは購入せずに済むよう工夫をした。
- ・指定の体育着が用意できない話をされた際、卒園した園児が寄付してくれた体育着を差し上げ対応する。
- ・主任保育士や園長先生に相談し、1人ではなくみんなで対策を考えて、対応していく。同じクラスの担任で話し合う。
- ・園のみで把握せず、市の担当者や保健師へ伝え連携をとりながら今後の対応を話し合った。
- ・体をきれいに拭く。給食を多目に与える
- ・給食の配食やおかわりの時に多めに配り十分のお腹が満たされるようにする。衣服の汚れが目立つ時は、着替えさせたり、体の汚れがみられる時には拭いたり夏場からはボディソープで洗ったりする。
- ・清潔ではないので、毎日保育所で入浴をしたり、洗濯も手助けをしている。食事もおかわりがあると食べさせるようにしている
- ・精神面でのフォローは、言葉がけ、スキンシップなど心がけ、他児との差がでないようにしている。
- ・プール遊びがある際は、ボディソープで体を洗う。歯がなく、りんごなどがかたく食べにくいものは、小さく切ってもらい出すようにしている。
- ・保護者の不安な気持ち、頑張っている気持ちを受けとめ温かい気持ちで保育するよう心掛けている。

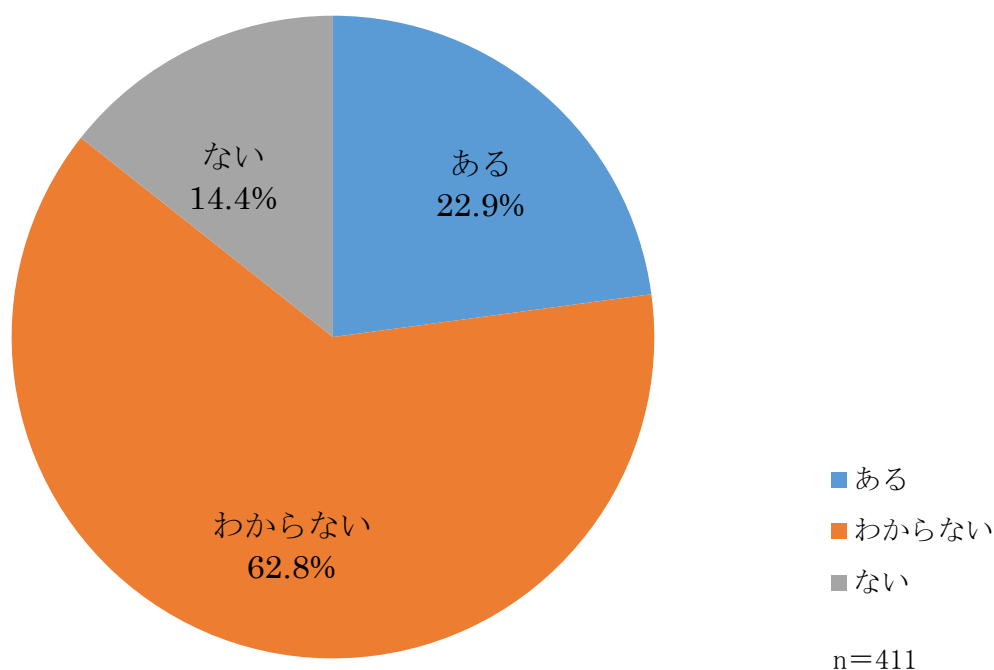
12. 前問で、「できていない」、「あまりできていない」と回答した方にお伺いします。十分な対応ができていないと思う理由には、どのようなことが挙げられますか。(自由記述から一部抜粋)

- ・あまり深くまで入っていけない。個人としてはできる事もすくないし、どこまでやってあげれば良いのか現実的にわからないのが正直な所です
- ・園に登園している間は身の回りの清潔さなど気にかけてあげられたが、直接保護者には伝えにくい事柄で、根本的な改善に近づけることが出来ていなかったから。
- ・昼食をよく食べる子、体臭がある子＝貧困世帯と判断すべきかわからず、保護者になかなか話ができずにいた。
- ・服装などの話を母にすることはできてもそれまでで、それ以上家庭の事情にふみこむことはできないから。保護者が話したくない。と思っているのを感じるから。
- ・親が困窮している事を言う事がないので、実際困窮しているのかまず分かりにくい。プライベートでプライバシーもあるので聞く事も難しい。園では、困窮しているのかもしれない…と想定して対応するだけで休日と降園後の対応までできない。
- ・家庭状況を深くまでさぐる事が出来ない。聞き方によっては失礼になってしまうので、そこから信頼関係がくずれてしまう事も予想される。色んな要因があり、うかがう事も出来ない現状。
- ・どのようなサポートをしたら良いのかわからない。支援できることがわからない。
- ・子育て支援が必要な家庭が多いことに加え、保育園の慢性的な人手不足。その影響で持ち帰り残業が多く、日々の保育を行うことで手一杯である。また、支援すべき方法や関係機関を知らない(つながりが希薄)

13. 貧困世帯と思われる世帯は、それ以外の世帯と比べて、親の子どもに対する接し方に違いがありますか。

貧困世帯と思われる世帯とそれ以外の世帯における、親の子どもに対する接し方の違いについては、「ある」が22.9%、「わからない」が62.8%、「ない」が14.4%となっている。

図 10. 親の子どもに対する接し方の違い



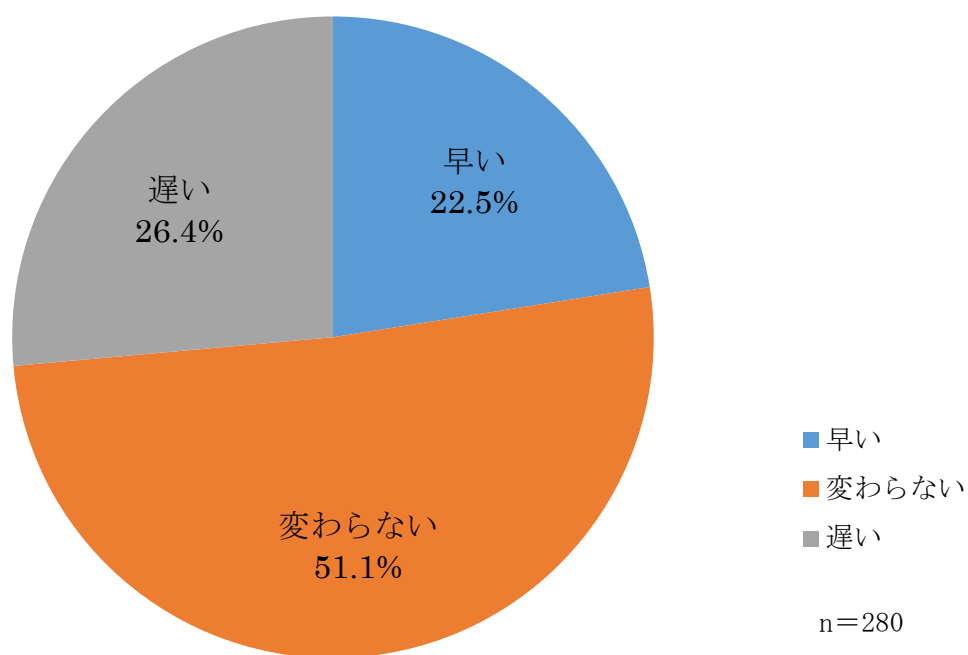
14. 前問で、「ある」と回答した方にお伺いします。貧困世帯と思われる世帯と、それ以外の世帯で、親の子どもに対する接し方には、どのような違いがありますか。(自由記述から一部抜粋)

- ・ 親自身に余裕がなく、子どもへの接し方がうまく行えていない。対応が冷たい。
- ・ 子供との関わりがうすいように感じた。
- ・ 子どもに対して余裕なく、おこる事が多い。(親も生活に必死)
- ・ 持ち物の不足、衣類の汚れ、時間にルーズ などを感ずるが、親はあまり意識していない傾向
- ・ 親の就労のきびしさや、余裕の無さから来る厳しい叱責。疲れていて子どもに向かい合えない。人と話をする時に表情がかたい(喜怒哀楽にとぼしい)
- ・ 親の性格か、生活面で余裕がない事に対するイライラかの判断はつきにくいだが、落ち着きのない我が子に対し、保育者や他の保護者の前でも怒鳴ったり、時には手をあげたりする場面も見られた事もあり、他の保護者と比べてやや気性の荒さを感じる。
- ・ 他の子と同じように園行事などに参加させてあげられなくても仕方がないと言いきかせてしまう
- ・ ゆとりを感じない。育児能力に欠ける面もみられる。

15. 貧困世帯と思われる世帯は、それ以外の世帯と比べて、朝の送迎時間が早いですか、遅い
か。

朝の送迎時間の比較については、「早い」が 22.5%、「変わらない」が 51.1%、「遅い」が 26.4%
となっている。

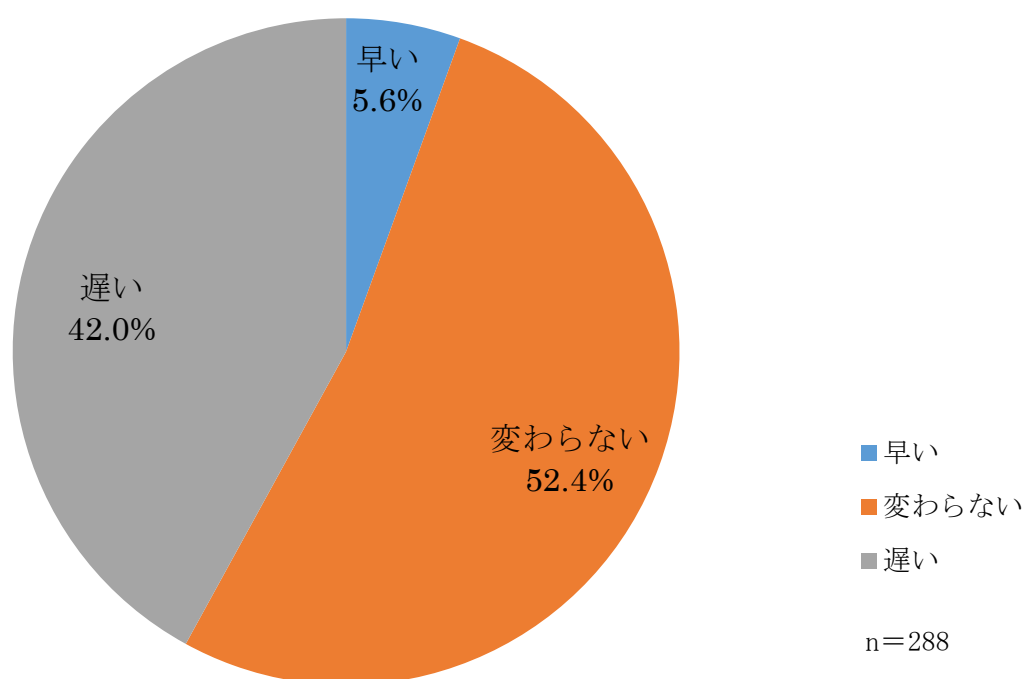
図 11. 朝の送迎時間の比較



16. 貧困世帯と思われる世帯は、それ以外の世帯と比べて、帰りの送迎時間が早いですか、遅いですか。

帰りの送迎時間の比較については、「早い」が5.6%、「変わらない」が52.4%、「遅い」が42.0%となっている。

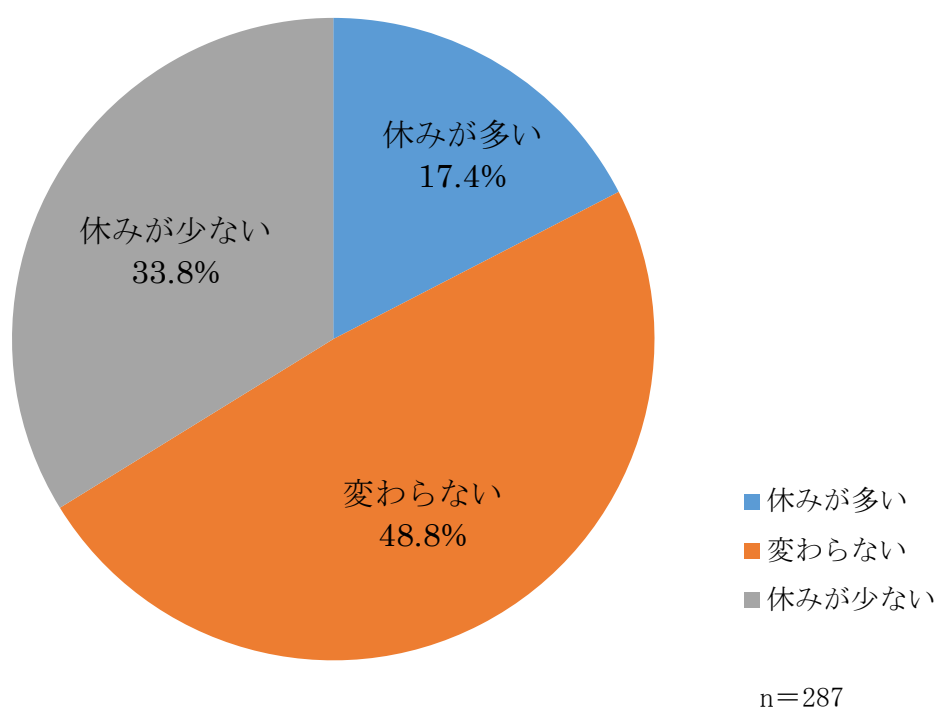
図 12. 帰りの送迎時間の比較



17. 貧困世帯と思われる世帯の子どもは、それ以外の世帯の子どもと比べて、園を休む日が多いですか、少ないですか。

園を休む日の多さの比較については、「休みが多い」が17.4%、「変わらない」が48.8%、「休みが少ない」が33.8%となっている。

図 13. 園を休む日の多さの比較

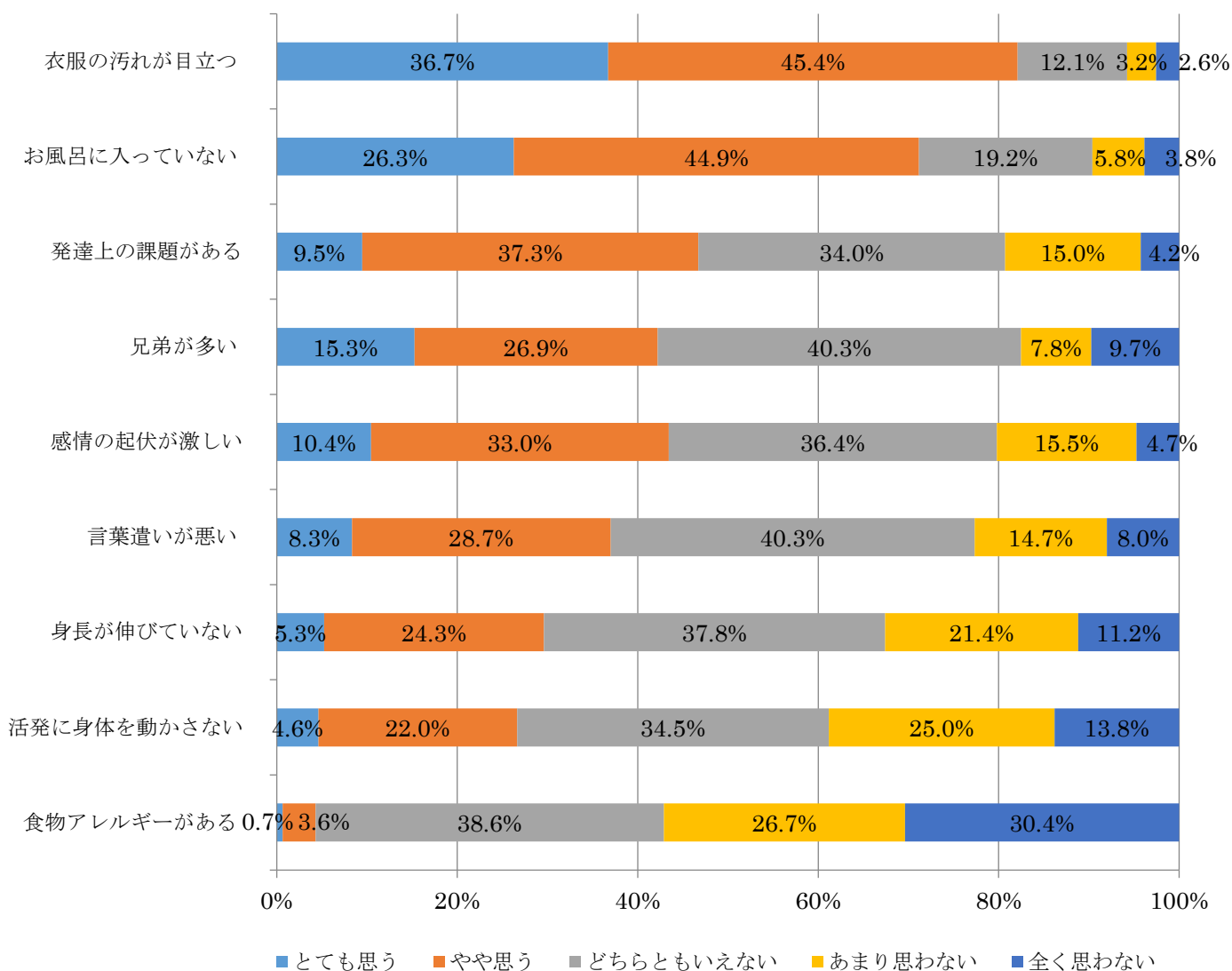


18. 貧困世帯で育てられていると思われる園児は、それ以外の園児と比べて、以下の項目が当てはまると思いますか。

貧困世帯で育てられていると思われる園児とそれ以外の園児との比較については、「とても思う」、「やや思う」と回答した割合が最も多いのは、「衣服の汚れが目立つ」の82.1%、ついで「お風呂に入っていない」が71.2%、「発達上の課題がある」が46.8%となっている。

一方、「全く思わない」、「あまり思わない」と回答した割合が最も多かったのは、「食物アレルギーがある」の57.1%、ついで「活発に身体を動かさない」が38.8%となっている。

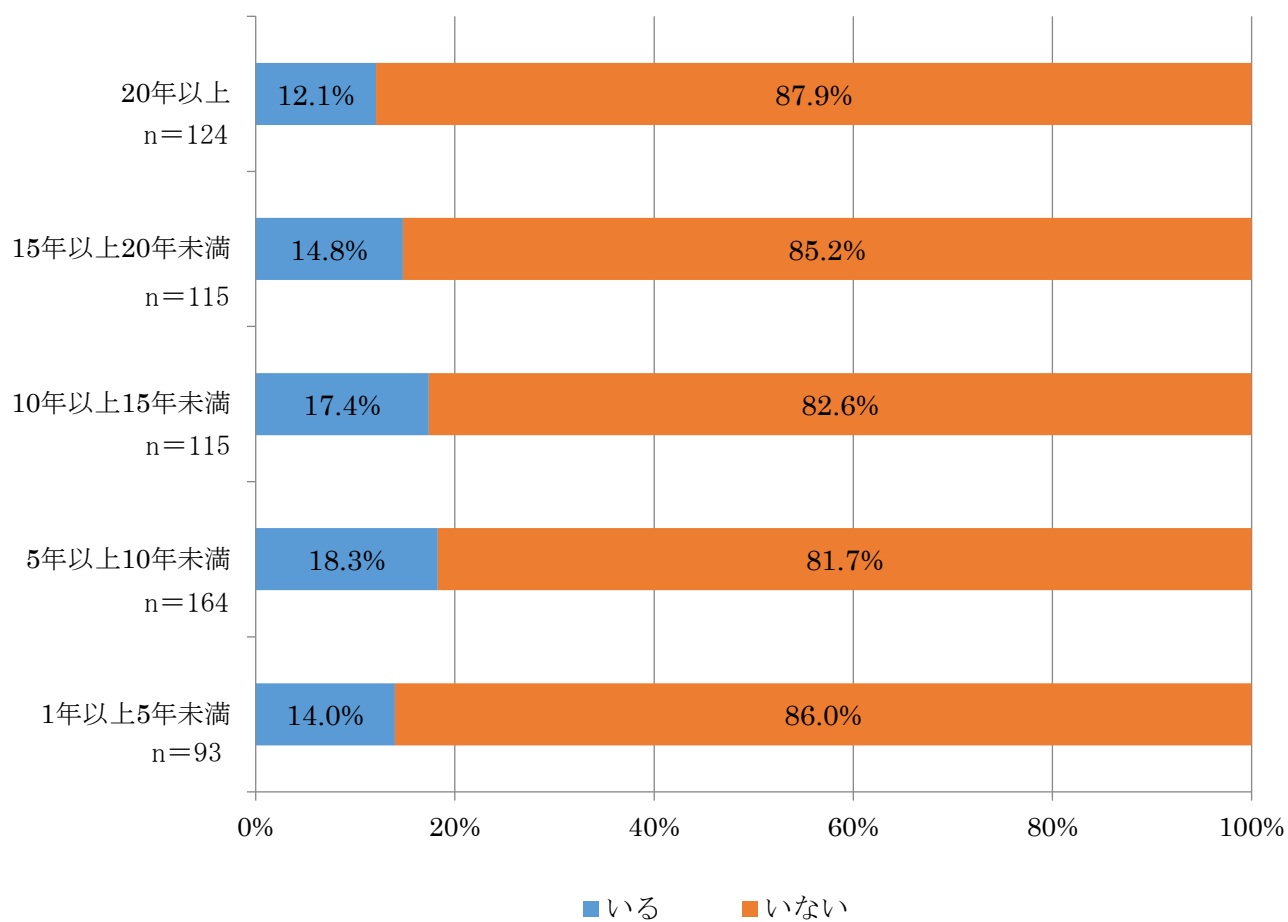
図 14. 貧困世帯で育てられていると思われる園児とそれ以外の園児との比較



19. これまでの保育施設での通算勤務年数と貧困の把握（クロス集計）

「これまでの保育施設での通算勤務年数」と、「担当する年齢の園児の中に貧困世帯で育てられていると思われる園児いるか」という設問をクロス集計したところ、「5年以上10年未満」の通算勤務年数の回答者が18.3%と最も高い割合で貧困を把握している。ついで「10年以上15年未満」が17.4%、「15年以上20年未満」が14.8%、「20年以上」が12.1%となっている。

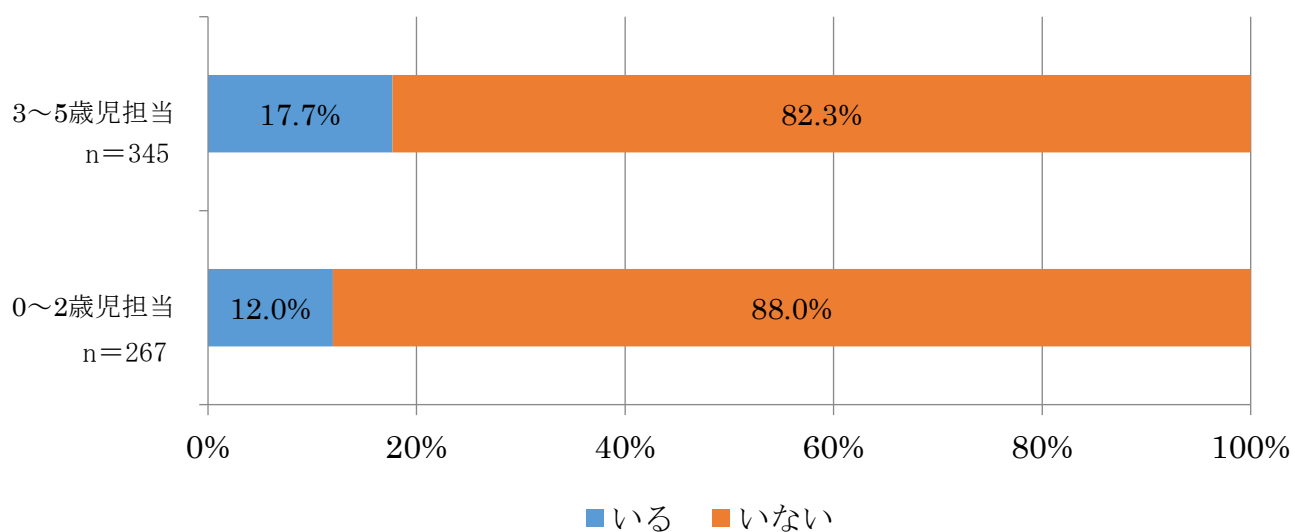
図 15. これまでの保育施設での通算勤務年数と貧困の把握（クロス集計）



20. 担当する園児の年齢と貧困の把握（クロス集計）

「現在、主に何歳児のクラスを担当しているか」という設問と、「担当する年齢の園児の中に貧困世帯で育てられていると思われる園児いるか」という設問をクロス集計したところ、0～2歳児を担当する回答者のうち12%が「いる」と回答し、3～5歳児を担当する回答者では17.7%が「いる」と回答した。

図 16. 担当する園児の年齢と貧困の把握（クロス集計）



21. 貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握したとき、保育所・幼稚園はどんな事ができますか。(自由記述から一部抜粋)

- ・園独自では対応しきれないことが多いので、専門機関との連携が取れるようにしていく必要がある。またそのような家庭に対してのマニュアルなどが無いと思うので、それらの作成を行うなど、取り組むべき課題は多いように思います。貧困世帯は今後増加していくと思うので、社会全体で考えていく必要があると思います。
- ・家庭相談員さんに報告、連絡する。園服など、リサイクル品の提供。
- ・子どもの様子を園長に報告し他の機関につなげる。持ち物の汚れがあったら洗ってあげる等、身のまわりの清潔を保ってあげる。
- ・早めに関係各所へ連絡をする。単独で何かをしようとするのは難しいと思う。
- ・市役所等で行われている支援活動を知らせる
- ・いつでも相談にのるという姿勢でいる。話しを傾聴する。改善できることを一緒に考えていく
- ・家庭での様子をきき、相談しやすい関係を築く。役場、市役所にて援助を得られる情報をもっている課とつなぐ。食事をしっかり食べさせる。友だちとの関係作りを助ける。小学校との連携をはかり、園児が進むであろう先の関係機関に様子をしっかりと伝える
- ・家庭とで手立てできる所を一緒に考え、サポートしていく。おさがりバンクなどの活用。今、一番何が大変なのかを話し合い、手立てを一緒に考えていく。
- ・送迎時や連絡ノートでお話を聞き、できることは協力し、心のケアをする。着替えの服が用意できない時は、園のものを貸し出す。子どもの様子を見ながら、給食の量、おやつを多くする。
- ・どんな点で困っているか、聞き、何か、利用できる機関・制度があるか、など、解決策を一緒に考える。行政の子育て支援抱括センターと連携する
- ・園にいる際は快適に過ごさせたい。家の様子を聞く際は配慮しながら聞くようにする。
- ・健康状態を気にかけて、けがや病気の早期発見に努める。顔や体、髪、爪などの汚れが気になる時は保護者の状況を見ながら無理のない範囲で清潔を促し、難しい場合は保育所でできる範囲で整える。(爪を切る、プール時に髪や体を丁寧に洗うなど)給食をおかわりできるようにする。
- ・子どもの気持ちに寄り沿い、教えられることを指導すること。両親の心の寄り所となれるよう、コミュニケーションをとること。子供の心や身体への変化にいち早く気付くこと。(虐待などの防止)
- ・園の中では安心して生活でき、集団生活に慣れて、楽しいと思えるような体験をたくさんさせてあげるように心がける。
周囲と変わりなく関わっていくことが必要。衛生面は、感染症も流行する時期にはとくにきをつかい関わっていく。
- ・子どもの気持ちをまず第一に考え、園児が他園児と差別感を感じないよう配慮する。
- ・子どものことをよく観察し、きちんと栄養がとれているか、清潔にしているか、何か感染症や細菌に感染していないか等子どもの体のことをよくみてあげることが大切だと思う。同時に、心の面でのケアもしていく。また親から家庭の情報を聞いたり、親の方のケアも、必要だと思う。
- ・園でもらった衣服など園で使わないものは寄付し、使ってもらう。不衛生と思ったら、園でできる範囲で清潔にする。園で貸し出しできるものは貸し出して使ってもらう。園ではお腹を満たして降園できるようにする
- ・生活リズムを整える(基本的な生活習慣)おさがりの服、園服など園に寄付してもらったものを譲る。朝食、おやつをしっかりと食べさせる。
- ・退所(卒)園児の教材を譲る(古着など)
- ・着なくなった衣服をもらった際、声を掛けてあげたりする。フードバンクを紹介する。
- ・園へもってきてもらうものを減らして、園でも援助する(紙パンツなど)。フードバンク等へつなげていく。

IV. 考察

長崎大学教育学部准教授 小西祐馬

1. 乳幼児の貧困は見えているか

「貧困世帯で育てられていると思われる園児はいますか」という問いに対して、「いる」という回答は保育士調査では15.3%、施設長調査では25.4%だった。この割合は、最新の「子どもの貧困率」13.9%、つまり「7人に1人の子どもが貧困」であることを踏まえると、低く感じられる。調査に回答した保育者たちが貧困をどのようなものとして捉えているか、どこまで実態を把握できているかが関係しているだろう。

おそらく、個人情報保護法の影響もあり、個々の家族の状況は見えづらくなっている。そのため、保育者が「貧困」と判断するには、子ども・親に、衣類、食事、発育・健康、費用の支払い等に明らかな困難・問題を見つけるしかない。いわゆる「絶対的貧困」は認識できるが、「相対的貧困」は「見えない」。

「貧困」があるという回答が、保育士調査で15.3%、施設長調査で25.4%のみだったというのは、貧困が見えにくいことを示しているのではないか。貧困が「見えない」ということは、個別的な支援も届きにくい可能性がある。

しかし、自由記述欄には過酷な現実が描かれていた。「手元がびろびろになっていたり、シミが目立つが、その服を2日に1回のペースで頻繁に着ていたり、スタイ（食事中エプロン）がカビているにもかかわらず使い続けている」「夏の猛暑の中でもお風呂に入らず、体が汚れていたり臭いがきつい」「全身タバコのおい」「給食を飲むように食べ、おかわりを何度もしたがる」といった記述が200件以上あり、統計的な数値では見えてこない厳しい状況がうかがえた。保育者から見える子どもの貧困は、数としては少ないとしても、「絶対的貧困」といえるほどの水準にあるようで、早急な支援が必要であることを示唆している。保育者へのインタビュー調査や保育所における観察などから実態の具体的な把握が求められる。

2. 保育所における支援

貧困と認識したとしても、支援に結びつくとは限らない。「貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、(担任として・園として)十分な対応ができていると思いますか」という項目では、「できている」「ややできている」の合計が保育士調査では14.4%、施設長調査では35.2%と少数で、「できていない」「あまりできていない」「わからない」という回答が多かった。保育所において支援を届けることができているという実感はあまりないようだ。

しかし、実感がないことと実際に支援ができているかどうかは別であり、保育所は「すべての子ども」の保育（支援）を通して、貧困にある子どもへの支援を行っていると言える。全ての子どもが同じ保育内容（遊び、体験、給食、養護など）を平等に味わえる保育所では、貧困世帯の子どもにとってかけがえのない場所であろう。実際に行っている保育・支援についても多数の記述が寄せられている。これらを整理し、すべての保育現場で共有していくことも重要だ。